

### 【小城春雄名誉教授が太平洋海鳥グループ（PSG）の生涯功労賞を受賞】

桜井泰憲（48才）

小城春雄名誉教授（44才）が、この度「太平洋海鳥グループ（Pacific Seabird Group）の生涯功労賞」を受賞されました。授与式は、2009年2月25日に、第36回太平洋海鳥グループ年次会議が開催された函館国際ホテルにて行われ、国内外からの海鳥研究者を前に記念講演も行いました。

同氏は、北大水産学部に勤務され、旧北洋水産研究施設・海洋生態学部門から現在の資源生物学講座・資源生態学領域において、数多くの学生、院生の指導されてきました。同氏は、1970年始めの大学院生時代から30年間以上も、北大練習船「おしょろ丸」や水産関係機関の調査船に数多く乗船され、オホーツク海、北部北太平洋およびベーリング海におけるウミガラス類、ミズナギドリ類などの海鳥類の分布と回遊、および食性の研究をされてきました。その膨大な研究成果は、外洋域における海鳥類の生態に関するバイブルとして、国際的にも高い評価を得ており、未だに同氏の研究を超えるものはありません。

これらの研究に加えて、海鳥に対する汚染物質の蓄積や海洋中に漂流するプラスチックペレットなどの海鳥による飲み込みの研究を行い、海洋汚染が海の生態系に与える影響を強く警鐘されてきました。現在も、国内の海鳥に関する研究機関、委員会のメンバーとして、精力的に活躍されています。同氏の、これまでの研究は太平洋海鳥グループの目的と一致しており、小城博士の長年にわたる太平洋における海鳥の研究と保全への貢献を称え、ここに生涯功労賞と言う名誉ある賞が授与されました。同氏の今後一層のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。



### 【綿貫 豊氏が日本生態学会大島賞を受賞】

桜井泰憲（48才）

綿貫豊氏（特別会員）がこの度、「気候変化によるフェノロジーのマッチ・ミスマッチが海鳥の雛成長の年変化を説明する」という研究業績で、平成20年度の度日本生態学会大島賞を受賞されました。

同氏は、1980年に天売島でウミネコの調査を始めて以来、30年近くにわたり学生とともに調査ベースを運営し、その間にウトウなどの海鳥の餌と繁殖成績のモニタリングマニュアルを整備し、それに従って得た資料をデータベース化してきました。その研究成果は、レジーム・シフト（数十年スケールの海洋環境の寒冷・温暖変化）に対応した海鳥の餌の変化に関する研究や、それが採食行動を通じて繁殖成績に影響するメカニズムの解明など、海外でも例を見ない研究として、国際的に高い評価を受けています。

また、この調査ベースには、毎年北大水産科学院の大学院生に加えて、他大学や研究所の学生・院生が海鳥の生態調査に訪れるばかりでなく、地元の自然愛好家との交流の拠点にもなっており、生態学の普及にも大きな貢献をしてきました。さらに、国立極地研究所、フランス CNRS、オーストラリア南極局との共同研究による、数年にまたがる国際プロジェクトをリードし、海水がアデリーペンギンの採食行動と繁殖生態に与える影響を明らかにしてきたことも高く評価され、今回の名誉ある大島賞の受賞となりました。

水産分野の研究も、これまでの漁業対象種の研究だけではなく、海洋生態系を構成する多様な生物の多様性を考慮した持続的漁業が求められています。これは、漁業活動を含めた人間活動や地球温暖化を含む気候変化が海洋生態系に与える影響を多様な分野から研究し、その海の恩恵として海洋生物資源を持続的に利用するという新たな視点が必要になっています。このような新しい水産研究分野でも不可欠な研究として、同氏の今後益々の進展と若手研究者の育成を期待しています。



### 【八紘会—関東地区会の集い】

清水榮一（17・ヨ）

四月二十九日、例年の通り横浜駅東口の崎陽軒で会合（昼食会）を行った。

思えば随分長く続いたものだ。

振り返ってみれば、この八紘会は窪田君か添田君の発案であったと思うが、昭和四十七年十一月四日に全国の同期生に呼びかけて第一回の会合を東京で行った。

前回の報告者である土屋君によれば、八紘も八紘一字も辞書から消えたとのことでしたが昭和五十四年二月講談社発の国語辞典には、「八紘一字=八紘は四方と四すみ、一字は一つの家屋、全世界が一家のこと」と説明されている。当時ここまで考えたかどうかまた誰が発言したのかは不明だが、函館高等水産学校の第八期生であったこと、語呂がよかつたこと且皆元気であったことなどで出席者全員が賛成して「八紘会」という会名になったと思う。

それはさて置いて、之が卒業後というか、戦後というか同期生の第一回目で当日の出席者は二十六名であった。（私の手元には出席者全員が記念のために記した寄せ書きがある。）それからは毎年持ち廻りで各地で行って来たが、十年程前に誰がつぶやいたか、お互体力がなくなつて來たので全国的集会は取り止めにしようと云うことになった。

しかし関東地区には会員が多くだったので、全国集会は無くなつても関東地区はこのまま続けようということで土屋君か新井君の提案で毎年四月二十九日（当時みどりの日）に「関東地区八紘会」として会合を続けて来ている。

とは云うものの今年の会合は島崎清康、土屋要、青戸偕爾、清水榮一と小泉一夫夫人、藤本巻藏夫人の六名であった。

チョイト淋しくはあったが、お互に九十歳をまじかにしているので之も止むを得ないと思っている。勝手に喋つて食べて飲んで今後も健康に留意して過すよう励まし合って会合を終えた。来年も会ふよ。

高水第八期養殖学科卒  
清水榮一（焼津市在住）

## 【寿洋会（昭24. 新遠漁2期）最終会】

11月1日 008

我が寿洋会は毎年各地の観光名所を選定、会う瀬を楽しむ共に健在を確かめ会いながら同級会を重ねて来ましたが、世に称せられる後期高齢者族に入ってから毎年少しずつ欠席報告が増え、昨年選んだ古都嵯峨の嵐山の会も寄る年に敵わぬ障害で不参加者が多く、京浜地区在住の常連6名だけの寂しい会合となりました。この席で同窓情報に詳しい安井兄より、既に同級会の終了を決めた先輩後輩ありとの話も出て、我らも来年を最終回にしようと衆議一決、ついては開催地は母校の函館で締めくくると言う話が纏まり今回湯の川温泉での会合となった次第です。

以上の会合経緯があり同窓会名簿から健在者19名（内3名は卒業以来音信不通）に連絡、せめて15名の参加をと期待しましたが、諸兄とも80歳の高齢に達し我が身に加え連れ添う奥様にも障害ある等で不参加の返事、加えて直前になって3名が故障及び都合で欠席、出席者は半分の10名になり最終会には一寸寂しい集まりとなった。

開催は予定通り10月1日湯の川「花びしホテル」にて18時より夕食会が始まり、久々に出席の年長83歳の板谷兄も加わりお互いの再会を喜ぶ乾杯、次いで欠席者9名よりの「残念ながら云々で参加出来ず諸兄に宜しく」との返信を披露後、久し振りの北海名産料理を味わいながら、出席者各位の近況報告を熱心に聞きながらの酒盛りは、2時間の宴会場貸し切り時間を30分延長しても足らず、2次会を幹事部屋に移動、少人数で膝を付き合わせて更に酒も弾み時の経過を忘れての語りあい、共に元気な存在感を確かめ合う記念すべき宴会となった。

翌朝は皆さん昨夜の酒量には全く影響なしとシャキットした表情で出席、名残惜しいお別れの朝食会となったが、今後は近郊に住む諸兄が誘い合い語り合うチャンスを作る話題も出て、お互いに末永く健康で優雅な毎日を送られる様にと暗黙の申し合わせ、併しこれが最終の会う瀬なのだなと強く意識させられ、一抹の寂寥感を覚えた湯の川の朝であった。

幹事役 松浦記



向かって左上より 菊地 板谷 東原 高橋 西  
向かって左下より 安井 船水 松浦 日野 鹿角

## 【同窓会費を納めましょう】

S17 ギ 土屋 要

母校の現状や同期生の安否等を知るのに便利な同窓会誌親潮を開くのは楽しみである。

然し会費未納の記事が毎号載っているのは不愉快千万この上なしである。

来年九十歳になる私の納入の仕方を書いて置きたくなつた。年度が新しくなつたらなるべく早めに納めます。平成十九年十二月六日に二十一年度分を、平成二十一年二月十二日に二十二年度分を納めてあります。会費納入分くらいは元気でいようと頑張っています。

会員死亡者名と同様に会費納入者名を掲載したら如何でしょうか。彼が払っているなら俺も払うぞなんていう人もいることでしょう。私の払い方をしていると死亡すると一年分は残りますが、御恩返しの寄付ということになると思いますが有り難いことです。

会員は一年分づつ納めればいいのです。その金額は新聞の一ヶ月の購読料です。

会費を払うかどうかの問題です。母校の発展を願わない会員はいないと思います。

＊＊

日本の近代化は横浜から、今年は横浜開港 150 年。遊びにきて下さい。函館も負けないで!!

## 【平成 20 年度北水同窓会小樽支部総会】

2月 20 日、北水同窓会小樽支部総会が、市内「潮亭」で開催されました。今年は、昨年と同じく 23 名が参加し、活動報告、会計報告、次年度役員選出など、一連の議事を終了し、懇親会へと移りました。初参加のメンバーもあって、近況報告など和氣あいあいのうちにあつという間に時間が過ぎ、来年度の再会を約して解散しました。来年度も、是非多くの皆様に参加していただきたいと思います。

幹事長 平山 聰



参加者（向かって右から）

前列：工藤 豊（23 セ） 高山

裕斌（36 ゾ） 小田一夫（45 ギ） 東 廣（29 ギ） 藤田征晴（31 ゾ） 勝木 茂（31 ギ）、 2 列目：谷全

尚樹（H5 海） 柴田耕一郎（H7 ギ） 赤川晃一（45 化） 櫻庭啓恭（46 ギ） 川島孝省（38 セ） 五十嵐映児

（48 化）、 3 列目：斎藤博行（47 化） 山本貞男（46 化） 大野 肇（55 ギ）、 4 列目： 平山 聰（54

ギ） 岡部 実（55 ゾ） 渡辺忠良（39 エ） 高野幹男（45 ゾ） 磯谷揚一（49 ゾ） 安達泰之（H11 海） 堀

井亜希（H9 食）

## 【卒業後 52 年、31 会開催】

31 ソ 萩野喜夫

隔年開催の 31・みそひと会。またこの時期が訪れ新たなトレールが引かれた。時は 9 年 6 月 26~27 日。所は前回の横須賀から再び北へ帰って、小樽は緑に囲まれた朝里川温泉。好天下、幹事団の待ち受ける中、再会に心躍らせて隨時到着の面々は、早速に昔に返った。

参加者は 24 名（道内外半々）、それに夫人が 10 名（こちらは道外が多い）、総勢 34 名である。從来に比してやや少ない感じだが卒 52 年ともなれば様々にご都合の叶わぬ方もおられよう。逆に新たな仕事に就かれてやむを得ずの方もおられたのはなんとも旧友として心強い限りである。

ご夫夫人方も含めておおむね常連化した本会ゆえに、再会できた人を見ると嬉しさや得も言われぬ安堵感が湧き反面、当然会えるものと勝手に思い込んでいた人の姿がないとやはり落胆感・一抹の淋しさは隠せない。

そんな中で、生駒市からはじめて顔を見てくれた谷君は、補佐役の夫人同道の健康事情はさておき、往時のままのいやそれ以上の意氣軒昂ぶりでまことに快哉であった。また故北見君の夫人も参加され、この会にもう 1 つ大輪の花を添えていただいた。

温泉にどっぷり浸かって一休みした面々、5 時半に宴会場へ。集合写真に収まってから先ず同期故人となられた方々の靈に黙祷を捧げ、司会者藤田（征）君の挨拶、幹事代表勝木君挨拶、最遠來北九州の横田君の音頭で乾杯後ゆるりと懇親に入る。今回も庄司君の山形さくらんぼが卓上を賑わし吉田幹事から説明付きで懐かしき名のついたクッキーが記念に配られた。思い思いに座った近隣どうし会話が弾みはじめてやがて順番に各自のスピーチに入る。いずれも真摯さ、洒脱さ、非凡さ等等がうかがえて感銘深かった。

楽しい時は速やかに流れいつものパターンで都ぞ弥生と逍遙歌にて会は閉じた。連綿と続く話は二次会へ。

一夜明けて充分な朝食後しばし余韻を共有してから、“次会に”を合言葉に自由解散組と積丹めぐり組とに別れた。『足るを知る』年令に達してか、皆爽やかでエイジングコンプレックスの気配など微塵も無い。

千載一遇の好天に恵まれ、ホスト役の藤田（惣）、中島両幹事にお世話いただいた積丹バスクターは余裕に満ちて、途中、中島君の生まれ育った所を逸話付きで通り、神威岬では断崖に咲く花花、これこそがのシャコタンブルー、満目の海の青さに魅せられ、食しては“生ウニ丼”に舌を奪われた。さらにニッカウヰスキー余市蒸留所や小樽運河の散策など大いに満足した旅であった。

さて、より高齢化する視点から会の今後について若干の議論がされたが、次回 21 年は仙台市在住の入江君を中心、庄司君も加わって東北での開催と大役を引き受けていただいた。より多くのご参加を乞い願う。

終わりに、当初今回の幹事の中核であった竹田君があろうことか昨年急逝された。改めて衷心よりご冥福をお祈りし、後を受けて努力された幹事の皆様に感謝、御礼を申しあげる。



北大水産学部昭和31年卒業 同期会(三十一会) 平成21年6月26日 於小樽朝里川温泉ホテル武藏亭

(後より数えて 1 列目左から) ソ藤田惣、ソ中村、ソ箕田、ソ田村、セ入江、ソ藤田征、エ中島、エ大谷  
( " 2 列目左から) ギ勝木、エ服部、セ前田、エ細谷、ソ吉田、ギ秦、セ加藤、ギ谷  
( " 3 列目左から) ソ須田、ソ荻野、セ庄司、エ横田、セ大園、セ羽田野、ギ佐々木、エ吉野  
( " 4 列目左から) 前田、細谷、庄司、須田、吉野、横田、北見、谷、勝木、藤田征各夫人

## 【平成 20 年度北水同窓会大阪府支部総会・講演会・懇親会報告】

支部長 入江和彦（45 ギ）

10月18日午後3時から中之島センタービル31階うおまん・トップラウンジにて、2年に一回の総会・講演会・懇親会が約5時間にわたって行われました。6名の来賓・講演者の方を含めて47名の方が出席されました。来賓の水産学部長・大学院水産科学研究院長の原 彰彦様(S46 増)に、支部活動の発展を期待していますとの祝辞をいただきました。また支部活動でご縁のある北海道大学関西同窓会会长・遠藤彰三様、北海道大学関西エルム会代表理事・日下大器様、札幌農学振興会関西支会副理事長・山口利昭様、北海道大阪事務所長・杉中正人様の皆様にも来賓として祝辞をいただきました。

総会の事業報告・計画では、①月例会開催②支部ホームページの開設③札幌農学振興会関西支会と共に開催している食育フォーラム活動④有志による小旅行実施などが報告され、今後とも、継続発展させてゆくことが確認されました。また、会計報告・役員改選が行われ、原案通り承認されました。

講演会では、昭和 50 年食品を卒業され、経済エコノミスト・ラジオ日経キャスターとして活躍されている金森薰氏による「米国経済と国際情勢」が講演されました。まさに今、問題になっているサブプライム問題に関して今後の動向を述べられ、生々しく大変有意義な講演となりました。

懇親会では、恒例のbingoゲームなど行い大いに盛り上りました。締めくくりとして、「水産放浪歌」「都ぞ弥生」を、肩を組んで合唱し、次の再会を約し散会となりました。

※支部月例会・・大阪駅前第2ビル2階北大会館で第三土曜日 17:00 から開催、支部活動の打合せを兼ねた飲み会で、どなたでも飛び入り参加大歓迎（会費 2,000 円）です。

※食育フォーラム・・今年で4回目、大阪府支部は昨年より共催として2回参加する。

※支部ホームページ・・<http://www.fiberbit.net/user/mo6c8a5/hptop.mht>

最後に、来賓・講演者以外の参加者を報告させていただきます。

鈴木(S24 製)、藤井(S36 製)、大野(S36 製)、杉浦(S36 製)、徳永(S37 製)、入江(S45 渔)、久保田(S45 化)、浦谷(S45 化)、山仲(S46 食)、西川(S46 増)、島田(S47 渔)、富田(S48 化)、宮崎(S48 化)、岡本(S48 渔)、田中(S50 食)、佐々木(S50 食)、中川(S50 渔)、大村(S51 食)、菊池(S51 食)、北出(S52 渔)、中井(S54 渔)、中山(S54 渔)、西本(S54 渔)、福間(S55 渔)、佐々木(S56 化)、大橋(S56 渔)、北林(S56 化)、楠山(S59 渔)、滝澤(S60 化)、中田(S61 食)、村田(S62 渔)、藤江(H元 渔)、讚井(H3 食)、川辺(H3 増)、新瀬(H7 増)、梅田(H7 食)、佐竹(H11 資)、大西(H12 資)、藤原(H13 生)、阪尾(H13 生)、中村(H15 シ)



## 【北水同窓会 東京支部総会開催の報告】

(昭51化学 浜谷)

去る、1月26日(月)銀座ライオン7丁目店6Fに於いて平成21年度北水同窓会東京支部総会が開催されました。当日の参加者は123名と遠くは沖縄からの飛入りもあり鈴木支部長の挨拶、神山茂郎大先輩(昭19製造)の乾杯の発声で始まり大盛況のうちに無事終了致しました。特筆すべきは平成年卒が30名を数え、更には女性会員の参加も7名に達し、いつに無く華かさと若さが溢れる賑かな会に成了った事です。

又、今回「日本水産(株)様」「(株)マルハニチロ水産様」「(株)極洋様」「東洋水産(株)様」「大塚製薬(株)様」「ヤマサ醤油(株)様」「(株)紀文食品様」からの商品提供のご厚志により全員にお手産が渡された事も大いに満足度の向上に役立ったようです。

又、本総会に於きまして、支部会費(3千円)の徴収の廃止等の一部会則の変更と役員の改選が承認されました。事務局より次年度の総会は平成22年1月25日(月)の予定との報告が有りました。

記

新役員

支部長	鉢木 和三(昭38増殖)
副支部長	細見 典男(昭48食品) 樋口 達夫(昭50食品)
監事	高津 敏(昭49漁場) 菅原 謙二(昭51漁業)
顧問	鈴木 賢一(昭36製造)
幹事長	浜谷 一郎(昭51化学)



## 【北水同窓会函館支部 平成21年度 総会・懇親会】

宮崎永司(平元ギ)

平成21年度7月3日(金)ホテル函館ロイヤルにおいて、支部会員46名の出席により平成21年度総会が開催されました。絵面支部長(37製)の挨拶に続き、我妻幹事長(52増)の議事進行の下、平成20年度事業報告と決算報告及び平成21年度事業計画と予算、役員が承認されました。続いて、「おしゃろ丸就航100周年記念事業」について記念事業実行委員会の中塚様より説明をいただきました。

総会終了後に行われた懇親会では、現役学生によるステージ発表として「ほくすいプラス」の演奏と「応援団」の演舞が行われました。「ほくすいプラス」は今年4月に公認された新しい団体で、「都ぞ弥生」「函館の女」の2

曲を演奏していただきました。出席者全員、美しい音色に聞き入っていました。また、応援団には新応援歌「海原遙か」の演舞など3つの演舞を披露していただきました。その後、現役の学生も宴に中に入り、先輩諸氏と大学の今昔の話に花を咲かせていました。

最後に、出席者全員での記念写真に続き、応援団の前口上で「水産放浪歌」を全員で歌い、11月に予定している「秋の同窓会」での再会を約し散会となりました。

出席者 齋藤昭二(23遠), 増田紀義(25遠), 木村順治(26漁), 大上博司(26製), 中道克夫(26増), 羽田野六男(31製), 島崎健二(33遠), 泉滋(37遠), 絵面良男(37製), 澤崎達孝(37増), 麦谷泰雄(37増), 安間元(38遠), 早瀬孝重(39遠), 奥野信博(40遠), 大野元經(40製), 工藤昭彦(44増), 伊藤悦郎(45漁), 高橋生(46漁), 赤沢和範(47漁)石尾敏文(47増), 渡辺安廣(49漁), 高橋是太郎(50食), 飯田浩二(51漁), 我妻雅夫(52増), 山下成治(54漁), 種田貴司(56食), 野崎雅敏(56増), 西川正一(56漁), 佐藤友則(57食), 中村慎一(58増), 小野浩(59食), 山本和人(59増)北爪博彦(61食), 宮崎永司(H1漁), 山本洋一(H2漁), 清水宗敬(H3漁), 兵庫隆俊(H5漁), 伊藤篤(H5増), 小園敏弘(H9漁), 中野紀彦(H10漁), 星澤克幸(H10化), 宮崎和貴(H10増), 岸本祐二(H15海), 鶴岡理(H15生), 山田奈央(H16海), 鋸明子(H19資)



北水同窓会 函館支部 総会・懇親会 2009.7.3 於: ホテル函館ロイヤル

### 【北水同窓会京滋支部総会報告】

支部長 小林 正昌 (S.39ゾ)  
2008.12.20

日時：平成20年10月25日（土）17時30分～20時

場所：ホテル京阪内、レストラン『オーク』

出席者（敬称略）：関岡滋泰（S17.ゾ）	目戸徳治（S33.ゾ）
吉田宣雄（S38.ギ）	水谷隆彦（S42.セ）
若林 博（S54.ゾ）	内林善彦（S55.食）
澤田宣雄（S60.院）	高木正夫（S62.ギ）
大寄良孝（H元.食）	田中良子（H20.生）
中川裕嗣（H20.生）	小林正昌（S39.ゾ）

議事：I 一般経過報告

- ① 平成19年5月 北大総長が中村睦男教授から佐伯浩教授にかわられました。
- ② 平成19年5月26日 水産学部創基100周年記念式典が函館にて行われました。（小林出席）
- ③ 平成19年度決算報告。高木正夫氏より監査報告があり承認されました。

II 20年度中間報告（20年1月1日～20年12月31日）

- ① 平成20年5月26日 北水同窓会総会が『虎ノ門パセドーラ』にて開催されました。（小林出席）
- ② 平成20年10月25日（土） 京滋支部総会開催
- ③ 平成21年度役員（3名）の選出（規約第四条）の件

引き続き全員留任と決定

支部長 一名 小林正昌（S39.ゾ）

幹事（滋賀地区）一名 澤田宣雄（S60. 院）  
幹事（宮津地区）一名 高木正夫（S62. ギ）

### IIIその他

#### \* 総会参加人数について

常連の参加者は比較的年齢層の高いひとに多く、若い人達から敬遠されているけいこうにある。しかしあまり神経質にならず、たがいに誘い合って気楽に、一一ということにしました。

\* 総会終了後、懇親会に入り、関岡大先輩（S17 ゾ）の乾杯の音頭で始まり、大先輩、中堅、若手の壁を取り外し、又今回は久しぶりでメッシュンの出席もあり、暫しの楽しい歓談で親睦をふかめました。名残惜しい中、『都ぞ弥生』『逍遙歌』『放浪歌』を大合唱し、21年再会を誓い散会しました。

以上

## 【書評】

### 「日本サケ・マス増殖史」

小林哲夫著、北海道大学出版会（2009年）B5版、311頁、7,000円

小林哲夫氏（25ゾ）は、この度北海道大学出版会から「日本サケ・マス増殖史」を出版された。同氏は、サケ属魚類の先駆的な生態学研究者であり、中でもシロザケの産卵生態、鱗形成機構および初期生活生態に関する研究成果は未だに色あせず、特に初期生活の生態に関する研究成果は近代的な孵化放流技術の確立に貢献し、現在のシロザケ資源の増加をもたらしたことで著名な方である。

技術とは目的を達成するために用いられる手段（技法）と能力（技能）であるといわれる。水産増殖とは、本来、自然要因とヒューマン・インパクトが水圏生態系とそこに生息する水産生物に及ぼす影響とそれらの動態を科学的に評価し、生態系ベース型持続的資源管理を行っていくことであろう。したがって、増殖技術とはそのための技法と技能ということができる。本書は、正にわが国におけるサケ属魚類（サケ・マス）の水産増殖技術史そのものである。本書は、大きく「日本におけるサケ・マス」と「北海道における人工孵化法の取り組み」の2部からなる。

第1部では、わが国におけるサケ属の魚類学、資源動態、増殖および人工孵化法の導入をレビューし、第2部で人工孵化法の歴史に関して詳細に述べられている。その中で、著者は「増殖」の概念を「目的とする魚介類の資源を人為的に管理すること」と定義し、その手法として繁殖保護、人工増殖および移植をあげており、人工孵化法のみが技法ではなく、繁殖保護も重要な技能であり、新潟県三面川の「種川制」を高く評価したことはきわめて示唆に富んだ見識であるといえる。

第2部では、各章ごとに最初に要約が載っており、内容を把握する上で非常に役に立つ。わが国のサケ属魚類の人工孵化法は、関澤明晴監修の「養魚法一覧」（1878）を基本に1888年の千歳中央孵化場の開設により本格的にはじまり、官主導で科学的に技術展開されたと一般に考えられている。しかし、千歳中央孵化場の孵化技術は、実際は茂辺地川民間孵化場の酒井宮次郎氏の経験的な技術に支えられていたとのことであり、「技術」とはなんぞやとあらためて考えさせられる。シロザケの降海行動と海洋初期生態に関する著者とその弟子達の研究成果により1980年代までに確立された「適期放流技術」が現在のシロザケ資源増加をもたらした一因であるが、サケ属魚類の増殖においてはその後新たな技術展開がなされていない。特に、適応度や耐性に優れている野生魚の保全と深く関わる繁殖保護に関する研究や技術はまったく展開されていないのが実態である。本書は、今後のサケ属魚類の「増殖」技術のあり方を考える上で、きわめて示唆に富んだ好著であり、一読を是非お薦めしたい。

（帰山雅秀（48ゾ））

## 第89回北水同窓会定期総会報告 廉務部幹事 関秀司(57化)

開催日時：平成21年5月23日 16:00  
会場：札幌サンプラザ

第89回北水同窓会定期総会には166名の会員と佐伯総長に御参加いただきました。当日のすべての司会進行役を御担当いただいた札幌支部藤島幹事長の挨拶の後、下記の式次第に沿って「札幌支部通常総会」、「定期総会」、「懇親会」が滞りなく執り行われ、女性会員全員が壇上に上がっての華やかな万歳三唱で懇親会が御開きとなりました。

総会並びに懇親会の開催にあたり、多大な御尽力をいただきました札幌支部幹事会の皆様と次回の定期総会の開催を御快諾いただきました青森支部の皆様に心より感謝申し上げます。

### ■式次第

- ・藤島札幌支部幹事長(S52 ギ)挨拶
- ・札幌支部通常総会
- ・第89回北水同窓会定期総会
  - 開会の辞(高橋本部副幹事長・S50 食)
  - 横山会長(S35 エ)挨拶
  - 佐伯総長挨拶
  - 祝電披露
  - 議長選出(札幌支部：村井氏・S45 ゾ)
  - 平成20年度事業経過報告・会計決算報告
  - 平成21年度事業計画・予算案報告
- ・懇親会
  - 原名誉会長(学部長・S46 ヲ)挨拶
  - 島中札幌支部長(S32 ギ)挨拶・乾杯
  - 北大交響楽団弦楽四重奏演奏
  - 同窓会員スピーチ
  - 次回総会開催支部(青森)へ同窓会旗引継
  - 佐藤青森支部長(S36 エ)挨拶
  - 寮歌齊唱
    - 北晨寮逍遙歌(前口上：平野氏・S35 セ)
    - 水産放浪歌(前口上：高橋氏・H5 漁)
    - 都ぞ弥生(前口上：横山会長・S35 エ)
    - 万歳三唱(野嶋美沙都・H20 シ+女性会員)

平成20年度 第89回北水同窓会定期総会  
平成21年度 北水同窓会札幌支部通常総会



北大交響楽団の演奏



横山会長の前口上で…



「都ぞ弥生」齊唱



女性会員全員で万歳三唱

総会出席者(敬称略、167名)

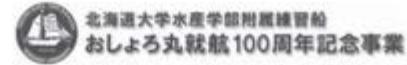
S19 セ 神山	茂郎	S42 セ	慶信	S55 ゾ	金森	浩一郎
S23 教セ 湯佐	利夫	S43 ギ	邦彦	S55 ギ	斎藤	二寛
S23 工 渡辺	正春	S43 ギ	幸一	S56 食	竹山	輝秀
S23 ギ 井上	専治	S43 ギ	勝一	S57 ギ	宮	透
S26 ギ 佐藤	紀三男	S43 ギ	信宏	S57 ギ	幡	和彦
S26 エ 前田	辰昭	S43 ギ	孝篤	S57 ギ	関	正子
S28 ゾ 山下	正徳	S43 ギ	勝美	S57 ギ	坂	廣哉
S29 ギ 田中	満穂	S44 ギ	昭夫	S58 ゾ	島	一也
S32 ギ 島中	貞夫	S44 ギ	隆	S59 ゾ	妻多	一治
S32 ギ 小橋	保智	S44 ギ	勝	S60 ゾ	田場	繁司
S32 ギ 池田	正利	S44 ゾ	信	S60 ゾ	末枝	樹
S32 セ 小泉	守省	S44 ゾ	弘	S61 ゾ	藤	幸人
S32 セ 安藤	吾弥	S44 ゾ	美	S61 ゾ	地口	純保
S32 セ 牧野	糾夫	S44 ゾ	昭	S62 ゾ	橋	元奈
S32 ゾ 高野	和則	S44 ゾ	英	S62 ゾ	尾藤	充一郎
S32 ゾ 今井	輝	S44 ゾ	洋	S62 ゾ	谷本	昌昭
S32 ゾ 寺尾	俊郎	S44 ゾ	功	S62 ゾ	西岡	忠良
S33 ギ 泉	敏博	S44 ゾ	年	S62 ゾ	遠敦	浩哲
S33 エ 前田	良康	S45 ギ	寛	S62 ゾ	酒井	潤研
S33 エ 佐野	弘彦	S45 ゾ	伸	S62 ゾ	村谷	晶
S33 エ 武内	輝彦	S45 ゾ	好	S62 ゾ	板筒	康
S33 ゾ 栗倉	弥彦	S45 ゾ	教	S62 ゾ	和山	恒
S33 ゾ 山崎	公彦	S46 ゾ	一	S62 ゾ	高井	徹
S34 ゾ 志尾	清一	S46 ゾ	彰	S62 ゾ	武田	一
S34 ゾ 竹長	久子	S46 ゾ	衛	S62 ゾ	坂	格
S35 エ 横山	健太郎	S46 ゾ	正彦	S62 ゾ	菊池	京
S35 ゼ 平野	隆義	S47 ギ	昭夫	S62 ゾ	千代	泰之
S35 ゾ 横山	正彦	S47 ゾ	幸	S62 ゾ	安達	子
S35 ゾ 岡部	立治	S47 ゾ	博	S62 ゾ	稻川	理恵
S36 ギ 下村	佐藤	S48 ゾ	学	S62 ゾ	原山	翔里
S36 エ 佐藤	昌次	S48 増修	美智	S62 ゾ	杉青	江子
S36 エ 山田	東彪	S48 ゾ	治	S62 ゾ	畠	茂
S36 ゾ 小田	悦哉	S48 ゾ	雄	S62 ゾ	宅	俊絵
S36 ゾ 尾身	君勲	S49 ゾ	良	S62 ゾ	三藤	一仁
S36 ゾ 松井	深谷	S49 ゾ	雄	S62 ゾ	松	作
S36 セ 宇田川	秀里	S50 食	広	S62 ゾ	佐若	弘貴
S36 セ 佐々木	塩田	S50 化	夫	S62 ゾ	山	由佳
S37 セ 深谷	齐藤	S50 ゾ	信	S62 ゾ	塚	光幸
S38 ゾ 中津	稻本	S50 ゾ	実	S62 ゾ	藤	美沙
S39 ゾ 熊木	恒彦	S51 ギ	浩	S62 ゾ	千	都
S39 ゾ 表	匡典	S51 食	二美	S62 ゾ	安	
S39 ゾ 小林	俊行	S51 ゾ	修	S62 ゾ	達	
S40 セ 長土居	孝勲	S52 ギ	俊	S62 ゾ	稻	
S41 ギ 風無	昌次	S52 ゾ	浩	S62 ゾ	篠	
S41 セ 山口	聰成	S52 ゾ	晃基	S62 ゾ	杉	
S41 セ 中村	義昭	S52 ゾ	一	S62 ゾ	青	
S41 セ 上島	惠雄	S54 ギ	勝	S62 ゾ	畠	
S41 セ 渡邊	保幸	S54 ゾ	広	S62 ゾ	宅	
S41 ゾ 川村	準	S54 ゾ	範	S62 ゾ	松	
	徹	S54 ゾ	則	S62 ゾ	佐	
		S54 ゾ	成	S62 ゾ	若	
		S54 ゾ	順	S62 ゾ	山	
		S54 ゾ	祐	S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	藤	
		S54 ゾ		S62 ゾ	佐	
		S54 ゾ		S62 ゾ	若	
		S54 ゾ		S62 ゾ	長	
		S54 ゾ		S62 ゾ	近	
		S54 ゾ		S62 ゾ	藤	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ		S62 ゾ	嶋	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	山	
		S54 ゾ		S62 ゾ	塚	
		S54 ゾ		S62 ゾ	野	
		S54 ゾ</td				

# 「おしょろ丸」就航 100 周年記念行事開催報告

編集部幹事 山下成治 (S54 キ')

開催日時 : 8月 15 日(土)記念式典・16 日(日)本船一般開放

記念式 : 函館キャンパス水産学部講堂、祝賀会 : 函館国際ホテル



我が水産学部のフラグシップ「おしょろ丸」の関係者と同窓生が一同に会し、歴代おしょろ丸の偉業と栄光の軌跡を振り返る記念祝賀会を、佐伯浩北大総長、高杉重夫北大事務局長、西尾正範函館市長、横山清北水同窓会長(S35 キ')、島崎健二北水協会理事長(S33 キ')をはじめとする 160 名の参加の下に盛大にとり行いました。「温もりのある節目の事業」になるよう、実行委員長の原彰彦水産学部長(S46 キ')と副委員長の高木省吾おしょろ丸現船長(S58 キ')・小谷正雄水産学部事務長を中心とした多くの教職員と同窓関係者によって、写真コンテスト、記念誌刊行、記念グッズ制作および関連資料の収集・保存・展示、そして北方墓参出港直前の本船の一般公開など、数多くの関連行事が実施されました。

北水オーケストラが奏でる「都ぞ弥生」で開幕した 15 日の記念式典では、同窓物故者へ默祷を捧げた後、原学部長が式辞として、大連で開催された第 17 回 PICES 年次会でおしょろ丸がモニタリング貢献賞を受賞し、本船と本学の活躍が国際的に認識されていることを披露されました。

佐伯総長は、練習船の役割は時代とともに変遷してきたが、おしょろ丸の存在は国際連携や北大の全人教育において今も重要な戦力であり、新船建造に向けた強い意欲のあることを祝辞で開陳され、参考集者一同に感銘と勇気を与えられました。西尾市長は函館開港 150 周年のオーシャンウイークや函館水産・海洋都市構想に深く関わっている水産学部や練習船へ市民としてお祝いを述べられ、横山同窓会長は「乗れば人生が変わる！船の体験こそが人生の出発点」と喚呼され、地域と大学が深く結びついた函館こそが海洋国日本のために欠かさざる資産であり、実学を旨とする北大のおしょろ丸の経代の意を強くするよう鼓舞されました。次いで、おしょろ丸元船長の藤井武治北大名誉教授の多大なる貢献を讃えるとともに、貴重な資料を快く御提供いただいた和子夫人と足立洋子御息女に感謝状・記念品を贈呈し、おしょろ丸の勇姿を競った写真コンテストの表彰と祝電が披露されました。続く記念講演会では、西山恒夫東海大学名誉教授(S34 キ')と、おしょろ丸元船長の増田紀義北大名誉教授(S25 キ')によって、時代考証を踏まえた歴代本船の活躍と数奇な運命が、篤く語られました。

鏡開きで始まった夕刻の祝賀会では、退役後の帆船忍路丸 I 世が日本海洋少年団連盟の義勇和爾丸として多くの「海の少年」を育んできたことを来賓の今泉章利氏が語られ、高木船長が人材育成施設として国内外で大いに期待されている現状報告とともに、横山同窓会長の檄により、おしょろ丸 V 世の船出に向けて参考集者すべてが一致団結して取り組むことを誓い合って、和やかな散会となりました。

本事業の記事は 9 月号の北大時報に掲載し、次号の親潮には「おしょろ丸特集」を組みます。同窓各位からのお問い合わせの多い、本記念行事で北水生協とタイアップして作成した就航 100 周年のオリジナル・グッズは水産学部生協にて好評販売中です。

(次頁に、当日の寄せ書きを掲載しました)



北方墓参出港直前のおしょろ丸の船内開放と水産教室  
万代埠頭：市民など約260名がブリッジ見学・船内旅行で感銘を受ける。



参考集者全員による水産放浪歌の高吟・大団円 於) 祝賀会：函館国際ホテル



おしょろ丸就航100周年記念  
北水同窓会 2009年8月15日

SINCE 1907



おひこ丸の金の  
二泊三日定期船 17  
おひこ丸、虎島男  
(5.54.17)

卷之三

100才 あかべう  
H39 韶略 工業秀明

1950年  
1月13日  
晴  
H.J.S. H.J.S.  
H.J.S. H.J.S.

（アーチー）  
（アーチー）

卷之三



to  
Henry F. Willardson  
of  
Ann Arbor,  
Michigan

かうの百聞等が見えて、ついで、五世達生が玉前、諱元、  
H. Sato

萬歲  
H3增  
工程  
幹略  
明

おじゆく者一派士  
毫井経彦

九月十三日正午，飯田源二  
到來。源二曰：「前日之言，  
今日也已新發行。希望乞  
予。」

100 MHz 32-bit RISC  
160-350MHz Processor!  
Up to 144 MB

（33年間）いろいろな事で、大体が世話をされた。2月22日、大津に嫁入りした。

明治二世時代の学生  
五代古の右(ひこ) 桂山清

かうの百聞等が見えて、ついで、五世達生が玉前、諱元、  
H. Sato

The logo is circular with a black border. The outer ring contains the text "HOKKAIDO UNIVERSITY" at the top and "SINCE 1909" at the bottom. The inner circle features a stylized white sailboat on waves, with the text "OSHORO-MARU" written vertically along the left side of the boat.

（参考）  
（参考）

（150周年記念式典）  
北水道後援會 漢部  
（150周年記念式典）  
北水道後援會 漢部

1900年1月26日  
上海に上陸せり、学生も亦セ  
軍艦船内にて、歌謡を賛美せり。  
入港した歌謡を聞かせたときには  
軍艦船内にて歌謡を聞かせたときには  
軍艦船内にて歌謡を聞かせたときには

支拂ひ3年100万円、年利5%、55年半期割合(5%×0.5)。

新嘉坡之華人多為中國人所居，故有中國城焉。

新嘉坡萬事成酒會

来年のアドム新幹線バス

時代の更迭で更迭の而制限の導入が  
少くないと言ふ。H.A.井筒威俊  
が「沈上永遠大木」  
林業雑誌

## 【部活動紹介～Just now】 ほくすいプラス

H21 年度北水ぶらす代表：清田純平  
(海洋資源科学科・3年生：岡山県出身)

我々は現在7人の部員で活動を行っています。「ほくすいプラス」と聞いてどんな活動を行っているかと俄かには解らないかもしれません。簡単に説明しますと極めて小編成のプラスバンドで病院や老人ホームの慰問演奏、おしょろ丸の出港式での演奏を行っている団体です。一部「生演奏というものはかしこまって聞くものだ」という考え方方がいらっしゃいますが、我々は老若男女問わず気楽に音を楽しんでもらえるよう、愛称の意味を込めて「ほくすいプラス」と名付けました。

一般的に吹奏楽というものは20人～50人以上のメンバーで行うものですが、我々は7人。6人、はたまた3人でも演奏活動を行います。少々迫力に欠けると思われるが少人数のため楽譜の編曲が容易にできます。そのため聞き手の年齢層や季節を意識したオリジナルの曲目を演奏することができ、各ステージで好評をいただいている。

そんな我々ですが発足したのは去年で大学の公認団体となったのは今年の6月です。出来たばかりのサークルなので今は部室も楽器も練習場所もなく、決して活動環境が良いわけではなく、苦労も絶えません。しかし、将来的には部室も貰って楽器も十分にある団体に育っていけばいいなと願っています。のために、なるべく多くの活動をこなし、学内で認知される部活になっていかなくてはなりません。

「逆境こそチャンス」この言葉を合い言葉に今日もいかに楽しい演奏ができるかを追求しています。



### 活動記録（昨年度6月から7月31日現在）

- 平成20年6月 3年生4人でアンサンブルサークル発足  
10月 移行生2人を加え本格的に活動開始  
名前を「ほくすいプラス」とする  
11月 北水祭で初演奏  
12月 五稜郭病院で慰問演奏  
1月 老人ホームで慰問演奏  
4月 老人ホームで慰問演奏  
代替わり  
6月 おしょろ丸北洋航海出港式にて演奏  
7月 北水同窓会函館支部の式典にて演奏  
老人ホームで慰問演奏  
老人ホーム「こうじゅ」にて、お祭のボランティア  
おしょろ丸北洋航海帰港式にて演奏



## 【学位取得者】

(2008年9月25日)

- 小谷 健二 Phylogenetic Systematics of the Family Percophidae (Order Perciformes) (ホカケトラギス科魚類の系統分類学的研究)
- 三宅 博哉 音響学的手法を用いたスケトウダラ北部日本海系群の資源動態評価と産卵場形成に関する研究
- 佐藤 純 クルマエビのホワイトスポット病 (WSD : white spot disease)の防除対策に関する研究
- 望月 万美子 ニジマスの伝染性造血器壊死症 (IHN) 耐病性系統作出に関する研究

(2009年3月25日)

- イ ニヨマン ラディアータ Spatial Modeling for Sustainable Aquaculture Development of Japanese Scallop, Mizuhopecten yessoensis, in Funka Bay, Southwestern Hokkaido, Japan: A Satellite Remote Sensing and Geographic Information System Approach (噴火湾におけるホタテガイの持続可能な増養殖発展のための空間モデリング:衛星リモートセンシングと地理情報システム (GIS)によるアプローチ)
- 金 惠仙 Ecological and physiological studies of euphausiids in the Oyashio region, western subarctic Pacific (西部北太平洋親潮域におけるオキアミ類の生理・生態学的研究)
- 米山 和良 バイオテレメトリーによるコイの出現測定と遺伝的アルゴリズムを用いた出現に影響を与える環境要因の評価に関する研究
- 後藤 常夫 初期生態から見たスルメイカ秋季発生群の再生産構造に関する研究
- 鶴岡 理 Phylogenetic systematics of the cottid fishes of Icelus gilberti species complex (Perciformes: Cottoidei) (カジカ科ダルマコオリカジカ種群 (スズキ目カジカ亜目) の系統分類学的研究)
- 西森 靖 マルチビームエコー積分法を用いた計量スキャニングソナーの開発と魚量計測手法に関する研究
- 平岡 優子 北海道南西部太平洋水域におけるソウハチ仔魚の生残過程
- 山名 裕介 マナマコの資源生物学的研究
- 東 剛己 ドコサヘキサエン酸 (DHA) とリノール酸の水系での酸化機構に関する研究
- 木下 康宣 酸素濃度調節によるスルメイカおよび多種水産物の高鮮度保持技術に関する研究
- 金 亨塹 A Novel Immunization Method for Protection of Rainbow Trout from Infectious Hematopoietic Necrosis Virus (IHNV) (新しい免疫手法による伝染性造血器壊死症ウイルスの防除に関する研究)
- 洪 嵩 Immunochemical and molecular biological studies of choriogenin in red lip mullet (Chelon haematocheilus) (メナダのコリオジエニンに関する免疫生化学的および分子生物学的研究)
- 粉川 愉記 ウィルス性神経壊死症におけるウィルス混合感染の重要性とその対策
- バゲンダ カスッジャ ドミニク Characterization and application of a bacteriocin, Pediocin Iz3.13, produced by Pediococcus pentosaceus Iz3.13 isolated from Japanese seafood (水産食品由来 Pediococcus pentosaceus Iz3.13 の產生するバクテリオシン Pediocin Iz3.13 の特性とその応用)
- 福井 洋平 Ecology of abalone pathogenic Vibrio harveyi in aquaculture environments (アワビ養殖環境における Vibrio harveyi の生態に関する研究)
- 山本 幸弘 ホスホリバーゼを用いた機能性化合物のリン脂質誘導化法に関する研究
- 吉川 廣幸 性転換クロンドジョウを用いた非還元配偶子形成機構に関する研究
- 稻川 亮 Comparative Morphology and Phylogenetic Systematics of Fishes of the Genus Artediellus and its Relatives (Perciformes: Cottidae) (オキカジカ属およびその近縁群比較形態学および系統分類学的研究)

## 【会員移動】

(H20.4.2~H21.4.1)

(昇任)

- 2009年4月1日 大学院水産科学研究院 准教授 丸山英男 (同助教より)  
2009年4月1日 付属練習船おしょろ丸 船長 (准教授) 高木省吾 (同次席一等航海士より)  
2009年4月1日 付属練習船おしょろ丸 次席一等航海士 (助教) 亀井佳彦 (同首席二等航海士より)  
2009年4月1日 付属練習船おしょろ丸 二等航海士 (助教) 坂岡桂一郎 (同次席二等航海士より)

(移動)

- 2009年4月1日 大学院水産科学研究院 准教授 今村 央 (総合博物館 (水産科学館)・准教授より)  
2009年4月1日 付属練習船うしお丸 船長 (教授) 目黒敏美 (おしょろ丸・船長より)  
2009年4月1日 水産学部 准教授 山口秀一 (うしお丸・船長より)

(採用)

- 2009年4月1日 大学院水産科学研究院 総合博物館 (水産科学館) 助教 河合俊郎  
2009年4月1日 付属練習船おしょろ丸 三等航海士 星 直樹

(定年)

- 2009年3月31日 仲谷一宏 (大学院水産科学研究院教授)  
2009年3月31日 高橋 豊美 (大学院水産科学研究院教授)  
2009年3月31日 三浦 汀介 (大学院水産科学研究院教授)

---

## 「友朋自遠方來不亦樂乎」

平成21年2月～平成21年6月に研究室を訪問された方々 (敬称略)

### 資源利用学 (旧食品化学第一講座)

新井信太郎 (平4食) 2/13、平野次彦 (57食) 3/13, 6/6、熊谷百慶 (20資化) 6/12

### 海洋生態系保全戦略

今井尚隆 (平17海) 6/29

### 海洋微生物学 (旧微生物)

田中宏朗 (食品) 5/21、鐵川史人 (H20海) 6/19

### 海洋分子生物学 (旧水産高分子化学)

千葉智 (平元・水産化) 5/21

### 育種生物学 (旧水産植物)

玖村武史 2/16、徳島悠木 4/9、高松真悟 6/19、宮田昌彦 6/26-27

### 増殖生物学

鈴木せいら (平19生) 5/1

### 生産環境安全管理 (旧化学工学)

小路康弘 (平18資) 2008/11/21

### 水圈食糧科学

中村厚 (H18応用生命科学) 2/20、武田浩郁 (H18応用生命科学) 6/16